

註文製錦

秋冬

二

5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4

藝文彙編二卷目錄

秋部

初秋

秋風

萩

朝白

女郎花

薄

露

秋前栽

秋野

秋夕

秋雨

雁

出

霧

月

菊

紅葉

野分

秋霜

秋夜

暮秋

九月盡

秋雜

冬部

初冬

時雨

落葉

霜

冬月

千鳥

豐明節會

霰

雲

網代

鷹狩

冬梅

冬雜



紫文製錦二卷

安藝源 稻彦撰

秋部

初秋

来せり。秋はすき
をふり。うら。ま。

舞文ニテウ

秋にけりぬ。ち。は。の。せ。す。く。ん。ふ。よ。り。て。か。し
り。衣。ら。し。う。ら。ま。び。く。し。の。り。し。け。み。し
け。ひ。の。ま。は。し。と。ま。は。く。わ。り。の。け。り。し。け。り
ち。ま。く。し。御。衣。の。ま。は。り。の。け。り。し。け。り

紫二卷



〜行ふ。

白三十一本

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

八本

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

抄

○又小町夕月夜さるる〜

〜行ふ。

推本十十ウ

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

○又小町夕月夜さるる〜

暗吟五十二
 〇 夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々
 〇 夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々
 〇 夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々
 〇 夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々
 〇 夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々

秋風

秋風 夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々

夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々

萩

少 女 十 六 十 七 時 雨 ち ぢ ぢ 萩 花 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々

夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々

朝良

夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々
 夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々
 夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々
 夕 暮 雲 影 散 々 飛 鳥 鳴 聲 寂 々

中へいぢりたてゝなむりあはれ

あはれ 昔 けしき けしき

あはれ 昔 けしき けしき

あはれ 昔 けしき けしき

あはれ 昔 けしき けしき

あはれ 昔 けしき けしき

あはれ 昔 けしき けしき

あはれ 昔 けしき けしき

いもあはれ 大君多し けしき けしき

女郎花

あはれ 昔 けしき けしき

花薄

あはれ 昔 けしき けしき

見せしめたるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ

あはれなるはなればこそあはれ

あはれなるはなればこそあはれ

露

あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ

秋前裁

和隆十五丁

あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ

夕月廿三丁

あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ
あはれなるはなればこそあはれ

かゝる云々

頂ノ世四丁太前栽此花。いろくさ花みども。松をうき文

苔に海みやうも。郎小出あひて。たがみ行ふ。

松月サミツク○このまゝも。あつきの。けいさき。芳けいも

に。まらちまらち。つたると。前栽の花。身もまご

したる。いろあひの。まじりも。あてき。

野分三丁○中まけたまに。枝れ花を。植をせ。けつるも。

けりけり。さうり。身所。わかく。公。草。けつ

く。て。よ。あ。く。ら。き。あ。つ。木。け。ま。う。ま。を

世

ゆひまを。けり。だま。ま。花。け。ら。び。き。す。げ

朝。ま。け。由。け。し。う。り。ま。の。け。ま。あ。び。五

か。と。ま。ま。ま。け。け。く。わ。る。野。ま。れ。ら

は。思。る。に。ま。又。春。け。山。ま。わ。す。ま。ま。涼。ら

に。ま。ら。く。ゆ。ま。あ。く。の。ま。わ。ら。ゆ。り。喜。秋

け。あ。ま。ひ。ま。ま。ま。ま。ま。秋。ま。ひ。ま。ま。入。る

か。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。春。け。お。ま。ま。ま。は

ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま

ふ。け。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま

〇世二丁オ
田にやまうめるよみまら。こぼりち
げりりしちやあまのふんがたもつら
にちしちあまら。

秋父

横笛七丁オ
秋は山へは。そのあはれはるよ。一糸はを
たまひやうら。なつひくわらうら。づち
にけあやうに。使うら。しどひやうら。は
どしどし。

〇世五十五丁オ
ひんがは。くらん。た。の。く。文。の。に。

大底四時心極苦
就中腸断是秋天

似るまゝ。花はひまをく。漸前村草村を見
りま。竹あま。ものみとれなるよ。い。に。つ
い。け。わ。さ。た。ゆる。秋は。ま。い。こ。ゆ。を。
い。と。び。び。あ。の。ま。は。は。ぬ。ま。り。

秋雨

借雲廿九丁ウ
秋はあ。も。志。は。る。あ。て。な。ま。れ。前。裁。の。
いろ。み。ま。ま。た。る。は。ゆ。は。い。い。よ。の。
お。と。ま。の。さ。け。も。た。が。い。で。ら。し。く。御。袖
ま。ぬ。れ。け。女。流。の。に。わ。ら。う。り。

野分ハナト
あいのちのこゝろに思はまゝに
あはれしつゝ
あはれしつゝ

〇コト
あはれしつゝ
あはれしつゝ

雁

頃ノ廿四ノ夕
舟がまはるゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ

あはれしつゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ

〇同
あはれしつゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ
あはれしつゝ

のりよふとてなほなほなほなほ
 はやしとてなほなほなほなほ
 音に想夫恋をいふなほなほ

出

月をい入るもたふさふさなる
 涼しく吹て草村たふさふさなる
 花よりなほなほなほなほなほ
 花よりなほなほなほなほなほ

命帯
 花よりなほなほなほなほなほ

秋あゝすさむるもなほなほ

柿
 風よりなほなほなほなほ
 花よりなほなほなほなほなほ

明石
 三昧堂ちとてなほなほなほなほ
 あひく物にまゝなほなほなほなほ

前裁
 ねほなほなほなほなほなほ
 花よりなほなほなほなほなほ

横笛
 花よりなほなほなほなほなほ
 花よりなほなほなほなほなほ

大方は世を渡る一歩の石を踏む
かゝる世に生れしは世に生れしは
世を渡る一歩の石を踏む

雲務

夕月廿二才
るけわしうちの世に何ぞ一は世に生れしは
かゝる世に生れしは世に生れしは
たかへし世に生れしは世に生れしは
世に生れしは世に生れしは世に生れしは

雲

いさうあまに生れしは

いさうあまに生れしは
ちの世に生れしは世に生れしは

行方をいさうあまに生れしは

いさうあまに生れしは

いさうあまに生れしは

いさうあまに生れしは

いさうあまに生れしは


~~~~~

~~~~~

〇月~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

〇月~~~~~

~~~~~

~~~~~

三五夜中新月色  
二千里外故人  
あつた花の月と花  
と花の月と花  
と花の月と花

〇月~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

〇月~~~~~

~~~~~

~~~~~

に けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい
けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい
けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい
けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

語次書

けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

二冊二十才

けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい
けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい
けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい
けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

同四十五才

〇 けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

松尾井一才

〇 けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

幸後ハ一才

〇 けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

Handwritten musical notation on a five-line staff.

藤袴 十二ノオ

一節

横笛 十二ノオ

毎拍 二ノオ

カハシ

カハシ

カハシ

ナカノ君 催馬寮の謡曲の節

Handwritten musical notation on a five-line staff.

Main body of handwritten musical notation on a five-line staff, including various rhythmic markings and notes.

鈴曲 九ノオ

〇周

たゞに大辨大辨なるを説くは 一經に

如くは 大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

○大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

大辨大辨なるを説くは

紅葉

賢木廿九丁

紅葉ハヤリノミガガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

夕暮ハ清キトシメノ色ハ花ノ葉ノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

ノミガキノノミガキノノミガキノノミガキ

秋夜

くまらさきしよ同たか〜
まらさきしよ同たか〜
う身ん終るも。

同九下十

くまらさきしよ同たか〜
まらさきしよ同たか〜
う身ん終るも。

秋に云く

秋霜

藤袴七六下ウ

九月にまなりぬをけ〜
かろあ〜

秋夜

赤福花十四下十

八月廿五日よひすく〜
あつたあつたにほし〜
あつたあつたにほし〜
あつたあつたにほし〜
あつたあつたにほし〜

續前 秋の夜は涼しくもひきかたにぬ所はにけは
 知らぬはれはばいりるをまきて峰は風ま
 づをけまてこらばそびよのこゝろをさる。
手書 心ふぐれり。そはれたとえあはれなむ。思ひ
 いげることたほくて。
字書 んにきけけをわぬげまなつ。むし細に
 ちあぞみまらる。月さし。て。たの。て。あ。よ。
 ひるあみありける。中將様を。ま。り。

暮秋

漢詩 つけくもまればわのね。月ころり。つ。あ。あ。
 九月よなりぬ。山むらり。い。し。は。な。ら。う。木。の。葉。
 けかくらへなくひらて。ま。ら。げ。の。こ。ら。と。あ。じ。
五言 まよどなまき。を。こ。
口占 九月十日。雲出。う。ん。ま。は。あ。の。こ。ら。う。ら。ぬ。
 人きいた。ま。あ。ま。た。ば。い。ら。山。風。ま。ち。ぬ。木。
 こけ木未え。峰はくまはえ。こ。ら。わ。わ。く。し。
 う。あ。あ。ひ。ら。ま。ま。た。れ。あ。あ。ふ。と。あ。あ。強。
 の聲。う。す。に。念。佛。な。げ。し。思。は。り。し。て。

人代けをひいとすくなう。木がしりろ岐を
 ひきもるに鹿をたぐる。たぐるまどにたぐらみ
 けく。出のしひ板もまおる。すまをいひくね
 ぐまは中にまぐやせうらしくまう。まひひのほ
 なる。龍けしをま。とぐまうたもふ人をたぐ
 ろのしひがまおる。いさかーいさかふまひ
 びく。草村うむーうま。うまのまをまぐま
 よわら。いさかひのまをまひひのまをまぐま
 われひひのまをまおる。いさかひのまをまぐま

三

見のまをまぐまのまをまぐまのまをまぐま
 なる。いさかひのまをまひひのまをまぐま
 物がしひのまをま

橋板十七丁オ

〇五明の月をまおる。いさかひのまをまぐま
 にいづたちていともおのびてオオホシとまに人たぐ
 まなく。まはましたる。いさかひのまをまぐま
 まをま。いさかひのまをまぐま。いさかひのまをまぐま
 〇五明の月をまおる。いさかひのまをまぐま

りたか〜
 りたか〜
 ひとたか〜
 はあ〜
 こた〜
 山山あ〜
 かくもろ〜

総角五十三丁

〇九月十日ははあ〜
 こま〜

三

のむら雲〜
 志洗〜
 清〜
 〇お〜

宿木六十五丁

〇字治の〜
 せむ〜
 し〜
 ち〜
 じ〜

ふにて人がもまことにたゞみるにまげ
かましくしかならぬとそがけりかた

九月盡

國屋三十才
九月はごもつふまを紅葉の色くま

せ霜がけう草むくたのう月を

はいへ

角巻 五十四才
あめひやうの打たぬく杖を

もたふらぬ

秋雜

華本廿二丁
をせこしりくすつりまてこふ

うこた洗えのにちがもてせづつ月を

菊の面白くしりひわして

ははみちりけむりおちを

ありふせころあふ曲あふ

権馬 地のい
新いよふあつしり

かよる松翠今を

はちかめあふむすひ

あふげか_律あふむすひ

Deutsche *Wörterbuch* *der* *deutschen* *Sprache*
von *Prof. Dr. A. A. Kramer* *in* *Leipzig*
Verlag *von* *B. G. Teubner* *in* *Leipzig*
1890 *Preis* *1 M.* *10 Pf.*
Druck *in* *Leipzig* *bei* *B. G. Teubner*
Verlag *in* *Leipzig* *1890*

Die *deutsche* *Wörterbuch* *der* *deutschen* *Sprache*
von *Prof. Dr. A. A. Kramer* *in* *Leipzig*
Verlag *von* *B. G. Teubner* *in* *Leipzig*
1890 *Preis* *1 M.* *10 Pf.*
Druck *in* *Leipzig* *bei* *B. G. Teubner*
Verlag *in* *Leipzig* *1890*

いよちけの法にこそなまへておのれを
おれ秋のははひかきまじりのあざなはるもあざな
 るちちとてなひもあはる。月秋風あざん
 てまねもあはる。海のものを見んて
 むいもいづ道もいづ。数もいづ。たは
 なまのうらな。たは。い。あ。あ。あ。あ。
 ういもあまもたは。あ。あ。あ。あ。あ。
榎たは。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 い。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

うはちりく。た。あ。あ。あ。あ。あ。
 は。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
右あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ち。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 い。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 は。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 一。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 は。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

しげぬ。

○ハ月中十日はものなれり。のびた氣をすま。
 夕暮夕暮四四オ
 〇日日ツオ
 〇日日ツオ
 〇日日ツオ
 〇日日ツオ
 〇日日ツオ
 〇日日ツオ
 〇日日ツオ

木涼く涼くして。ついでなせして。かぎしんね。短よむ
 時。はつて。めづらあひく。たけ。色。を。あ。る。ま
 ひと。は。あ。ひ。く。も。あ。る。ま。あ。る。ま
 〇〇同同い。ふ。は。さ。ら。あ。る。ま。あ。る。ま。あ。る。ま
 鹿の鳴ねも。瀧。け。も。あ。る。ま。あ。る。ま
 ほど。あ。る。ま。あ。る。ま。あ。る。ま。あ。る。ま
 〇昔。上。田。山。の。あ。る。ま。あ。る。ま。あ。る。ま
 〇昔。上。田。山。の。あ。る。ま。あ。る。ま。あ。る。ま

手習十九ノオ

だいに父意ある所の木をもちたまへん。新哉が
 さまだのしく父意を許しん。杖よあつてけ
 は、空はくしんまを夜なるを。四つはあつて
 所もつまたるまのまねびに。いむのさしあつた
 うらうらだいし興もけいあつてひひいあつたま
 ねのしくしんまを。あつたまを思ひ出され
 て。おたぎらけ津息所のたまを。山田のり登
 今まのしくしてけいあつたまのまねびに。松
 のたぎらけけいあつたまを。あつたまを思ひ出され

とたこあしをのうけけいあつたまを。あつた
 のなり。尾君ぞ月ふとあつたまを。琴かど
 ひまたるよ。あつたまのまねびに。いむのさしあつた
 ひもあつたまを。あつたまを思ひ出され

冬部

初冬

夕夕負五十二丁 今目ぞ冬を平白なるもももさるんころち
ぐれて空けな一とせとあひのあひのあひの
強ひく。

源氏君

すまにーまらふわりのあまふいらにひん
こまぬ秋のくれのれ。

若菜若菜四十九丁

〇庭木をもちあののれぞがうらあわし
かれの前裁意にのひるかうにたまーらんて

川

葵葵三丁

〇まづれらちーんまはあをれたるまき流のまを
か得け君まび色けなまーあはらうか
らにのるもづーんまのまのまのまのまの
まづーんまのまのまのまのまのまのまの
にまのまのまのまのまのまのまのまの
け前裁まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまの
しく雨のまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまの

雨のまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまの

ささかほしくを見捨てたつちと
 なみぢきさうりしつてと
 にんさうきしつてと
 ごとくおんなと
 らんぢきさうりしつてと
若菜上六十三丁
 おんなと
 おんなと
 おんなと
 おんなと

ちばあさん
 おんなと
 おんなと
 おんなと

らたあさん馬車と
 おんなと

時雨

英世八丁
 おんなと
 おんなと
 おんなと

かきつばたのしほの油とてさけるははらけの
つゆ

賢木 廿八丁才 〇初 しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

わづらひ しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

臘月夜 木枯 しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

さけ しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

時雨 しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

ま しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

井落葉 の しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

ゆめ しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

神 しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

か しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

け しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

大 しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

ぬ しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

落葉

雨 しほ 〇初 しほ 〇初 しほ

宿木七十一
○木 *Forest of the mountains*
けしむる木花の葉なるはらへし
あみわたりしあまの思ふを。更りて
くさむるまきくはるはた。

霜

若葉四十一

いみじくもわらわらふるはるに霜
き。 *Forest of the mountains*
いみじくもわらわらふるはるに霜
き。 *Forest of the mountains*
○ヤキ *Forest of the mountains*

ねまらるるはるに霜
あまの思ふを。更りて
くさむるまきくはるはた。

冬月

謹 十五十一

いみじくもわらわらふるはるに霜
あまの思ふを。更りて
くさむるまきくはるはた。

新嘉坡の諸君に宛てて
此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい
此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい
此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい
此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい

豊明節會

又此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい
此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい
此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい
此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい
此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい
此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい
此の書は諸君の御覧に
宜しう御覧下さい

雨散

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of notes. The text is contained within a rectangular border. It begins with a small vertical label on the left side: ハカハト. The main body of text consists of several lines of fluid, connected characters.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. It is enclosed in a rectangular border. The text starts with a vertical label on the left: ハカハト. The main text is written in a continuous, flowing style. At the bottom right, there is a small vertical label: 未摘花 廿三丁ウ.

○
○

深月君

Am. C. m. f. t. s. t. o. n. k. t. o. n. e. f. u. e. l. l.
○
○
○

○
○
○

四
十
一
日

○
○
○

○
○
○

四
廿
九
日

○
○
○

○
○
○

四
十
一
日

○
○
○

○
○
○

○
○
○

天
神
推
光

○
○
○

○
○
○

○
○
○

蓬

生
十
一
日

○
○
○

○
○
○

朝
日
文

○
○
○

○
○
○

○ 月十百一十 月

月 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

○ 月十百一十 月

For some of the things of the world
that have been written down
in the books of the world
I have seen many things
that are not in the books
of the world.

鷹狩

雪^{ヤキニドオ}もよぶる^ノもよぶる^ノもよぶる^ノ
もあるよふ^ノもあるよふ^ノ
はらばら^ノはらばら^ノはらばら^ノ

ひもえ^ノひもえ^ノひもえ^ノ
もあるよふ^ノもあるよふ^ノ
はらばら^ノはらばら^ノはらばら^ノ

冬梅

雪^ノもよぶる^ノもよぶる^ノ
もあるよふ^ノもあるよふ^ノ
はらばら^ノはらばら^ノはらばら^ノ

久々雑

御^ノもよぶる^ノもよぶる^ノ
もあるよふ^ノもあるよふ^ノ
はらばら^ノはらばら^ノはらばら^ノ

未描花二十七下

〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ
 〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ
 〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ
 〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ
 〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ

〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ
 〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ
 〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ
 〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ
 〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ
 〇雪がふりつゝあふれはつて
 むねのこころをなぐすゝめ

推本世一丁才

Handwritten cursive text, likely a list or record of items.

角港 九十一丁才

Handwritten cursive text, likely a list or record of items.

村松 九丁才

宿木 七十二丁才

Handwritten cursive text, likely a list or record of items.

Handwritten cursive text, likely a list or record of items.

菅原

Handwritten cursive text, likely a list or record of items.

